

R5 特別の教育課程についての自己評価・学校運営委員会による評価

1. 学校評価（教員）

（1）「プロジェクトタイム」

- ・令和5年度は、開校してからの3年間の取組を振り返り、よりよいものにしていくために微調整を加えながら、各学年の探究課題に沿って、体験活動や聞き取り調査、発信を行った。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことによって、活動の幅も大きく広がった。外部人材の活用やICT機器の機能を効果的に取り入れることにより学びを深め、それぞれの課題に向かっておおむね活動することができた。地域の人材が豊富で、専門的経験や知識を持った講師の方々から積極的な支援を得ることにより、より質の高い探究活動を行うことができた。

（2）「コミュニケーションタイム」

- ・全学年の授業においてALTがサポートを行い、児童生徒が本物の英語に触れる機会を通年で豊富に設けている。
- ・前期課程高学年では、児童が学習してきた過程やそこでさらに芽生えた課題意識・考察等を、交流してきた外部人材に向けて発信していく場面を設定してきた。その際、自分の思いなどを含めた英語によるスピーチを行ったり、動画やポスターの制作をしたり等、多様な方法で発表し、児童の理解を深めることができた。
- ・後期課程では、学習活動を発信する場面で外部人材を招き、即興でやり取りすることで生徒自身が自分の英語力を客観的に捉え、今後の目標を持つことに繋げることができた。

2. 学校運営委員会評価

（1）「プロジェクトタイム」

- ・松東地区は自然豊かな地域であるだけでなく、歴史的価値のある名所や遺跡等、探究の宝庫と言っても過言ではない資源に溢れている。田植え体験やカジカ、アユの放流等、学校運営委員自身が地域の先生として講師を務める自然体験もあり、学校と連携・協力していくことで、ふるさとに誇りと愛着を持つ子どもたちの育成に繋がっていると考える。地域人材や専門的知識を持った講師を招聘し活用することを、今後も継続、推進してほしい。また、児童生徒自身が、探究し発信していくことによる効果を今後も見せて欲しい。

（2）「コミュニケーションタイム」

- ・1年生からの英語活動で英語のシャワーを浴びることにより、日常的にコミュニケーションを図ろうとしている姿が見られる。また隣接のこども園とも英語交流をしており、幼小中の連携を通して英語によるコミュニケーション力が一層高まるのではと期待している。英語検定取得の取組は開校以来継続して行っている効果がでており、前期課程児童でも5級・4級の合格、後期課程では2級合格の実績を残すことができている。今後も積極的な取組を行い、推進して欲しい。